

令和5年度 伊那市立新山小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
たくましく 心豊かな 新山っ子	<ul style="list-style-type: none"> ◆考える力の活性化 <ul style="list-style-type: none"> よく考え自分から実践する子 友の中で自分らしさを表現する子 健康に関心を持ち心身を鍛える子……
	今年度の重点目標
	(1)考えよう <ul style="list-style-type: none"> 自ら考え、計画し、実践できる力の育成 自分の考えを伝え合い、広げ深め合う学習活動の重視 粘り強く最後までやり抜く力の育成 自戒自律の心と「思いやり」の心の育成 ……
	(2) やってみよう <ul style="list-style-type: none"> 思考力・判断力・表現力の育成(伝え合う)(目標設定・自立)(柔軟性)「わかった」「できた」喜びのある学習 体験を通した学び・地域に出て地域とふれ合い新山を知る 暮らしのなかの食・日常的な農業体験 交流や集団行動において相手意識を持って進んで活動 ICT機器の積極的な活用
	(3)響かせよう <ul style="list-style-type: none"> 心を届ける挨拶、返事、歌声の奨励 伝え合うことによる響き合い 聞く、話す、対応することの重視 積極的な発表、発言 支え合える仲間関係の育成 学年を超えた仲間づくり 保育園や地域の人達との交流

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1) 全校児童の個別の指導計画を作成し、職員の児童に一人ひとりに対する共通理解をより深めてきた。その共通基盤をもとに自分の思いを伝え合う「月目標ふりかえり集会」では、集団の一員としてよりよい学校生活を自分たちの手でつくっていくとする活動を通して、人との関わりを広げたり、深めたりする力を伸ばしたりしてきた。日々の授業の見直しを行い、「ねらいの達成を見届ける」ことを大切に考え、全校で振り返りカードの形式をそろえて活用することで、児童一人ひとりが授業のねらいを達成しているかどうかを確実に把握するとともに、曖昧な振り返りに対して、担任が問い返すことで、児童は自己の課題をより明確にすることができた。	A b	○月目標ふりかえり集会では、全校児童が関わる活動となるので、関わり方や話し合われたことの受け止めには差があり、前の友だちの意見と関連付けて、自分の意見の伝え合いができるようになるとうい。普段の授業の中でも、子ども同士の双方向の関わりのある話し合いの場面を取り入れていく。 ○子ども達が本時のねらいにつながるような振り返りができるように、振り返りカードを有効活用しながら、子ども達が本時の自己の学びを自覚できるようにすることを積み重ねていく。
(2) 「暮らしのなかの食」の取り組みでは、カレーパーティー・焼きいもキックベース大会など自分たちで育てた物をいただく行事が根付いている。そこにキノコ採り、竹の子採りなどの体験も取り入れた行事が実施できた。学級の畑や田でとれた物を使っての調理実習など暮らしの中に食が息づいている。朝の活動として「田んぼ・畑の活動」の時間(新山っ子タイム)を設け、継続的な活動を促してきた。地域の方を講師にお迎えし、地域の方と触れ合いながら作物を育てる喜びを味わった。学校行事では、地域や新山保育園とカレーパーティーや新山フェスティバルに参加して、交流を深めることができた。今年度も、一人一台の端末配備となった環境を活用し、スクールタクトを使った各教科での実践、AIドリルの活用、長く欠席した児童とZOOMを用いたの授業参加等、実践とICTを効果的に活用してきた。	A b	○今年度、3年生が初めて新山地区で行われていた蚕の飼育に挑戦し、地域の方を講師に迎えて、新山の独自の文化、産業、歴史などの社会科の学習に学びを広げられた。このような取組を推進して、地域素材を生かした教材化を行うことで、目的意識をもって主体的に取り組む学習につなげていきたい。 ○総合や生活科や教科学習の中で、子どもたちに他者と適切に依存し合う力を養うためにも、地域の方に学んだり、他の学校との交流を行ったりしていきたい。 ○総合や生活科の授業では、子どもたちの見通しがつきにくく、どこまで教え、どこで大人が手を出すのが難しい。子どもに付けたい力を見極めながら、子どものつまづきに寄り添える支援を模索していきたい。 ○ICTをより効果的に使えるような情報交換や職員研修を行うなど、今後も授業改善を模索していきたい。
(3)今年度も、児童会の「おはよう玄関」は、朝朝児童代表・職員代表・校長が、玄関に立って大きな声であいさつをして子どもたちを迎えている。「さよなら玄関」で「今月のベストあいさつさん」等の互いの良さを認め合う場を大事にしてきた。新山保育園や地域の人達との交流(ジャガイモ植え、カレーパーティー、サツマイモ植え掘り、焼きいもキックベース大会、新山大運動会、新山フェスティバル)を通して、相手意識を培うことができた。保育園との交流や新山フェスティバルに向けた製作活動や販売活動、遊びコーナーでの取り組みは、相手に合わせた対応や工夫を意識して活動することができた。	A b	○今年度のように、「新山ギネス」、「ミニ運動会」のような児童会活動を通して、子ども達が主体的に学年を超えた友だちとの関わりを広げ、深められるようにしていきたい。 ○総合的な学習の時間や生活科などの活動を通して、地域の人などに自主的に挨拶していきけるように、担任自ら見本になるような挨拶をしていく。 ○教科学習やクラスの総合や生活科の授業をきっかけに、児童が、地域の人だけでなく、自ら学区外の人との関わりを求めているよう、学校全体で授業のあり方を検討していきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○児童の実態や本校のよさを生かした教育課程の編成	○学校の日課や行事など子どもたちにとって適切なものであったか。
		○学校の教育活動への理解、伝達	○学校要覧・学校便り・学級便り・HPなどにより、教育内容や子どもたちの様子を保護者や地域にわかりやすく伝えられたか。
	学習指導	○児童が主体的に取り組む授業の構築	○子どもたちが意欲を持ち、互いに学び合いながら、主体的に取り組む授業を展開できたか。
		○児童の学習習慣の定着	○学習習慣への意識を高め、身に付けることができたか。
生徒指導	○児童の心身ともに健全な生活の保障	○子どもたちは元気に登校し、楽しく学校生活を送ったか。	
	○思いやりのある豊かな人間関係	○子どもたちは、さまざまな経験や交流を通し、相手に心を寄せながら人間関係を広げることができたか。	
運営	安全	○児童の安全確保	○下校指導、交通安全教室等により子どもの安全への意識を高め安心安全を守ることができたか。
		○施設備品点検管理	○管理分担の安全点検を確実にし、子どもの目線に立った施設備品の管理をすることができたか。
	地域との連携	○地域との連携	○地域の方と連携し、PTA活動や各種の地域行事でお互いに協力できたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
○体育は高学年、中学年、低学年の2連学年が体育の授業を行えるよう配慮した。 ○行事は本校ならではの行事が多数計画されている。日課は重点目標に近づけるよう、バランスよく組んである。 ○集団登校の時間がまよひのではないかという意見も出て教務会でも話し合った。 ○清掃が終わってドリル活動にスムーズに移れるように配慮した。	A b	○学校目標実現のための日課となっていることを職員で周知していく。 ○来年度以降も少人数の学級があるので、どのような教育課程を組むことが子どもたちの力を伸ばすことにつながるかを考えながら、必要に応じて、連学年で行うようにする。また、宿泊的行事についても保護者負担も考えながら見直しを持っていく。そのため、5、6年生の修学旅行と臨海学習は、コロナ禍前のように、連学年で行っていく予定。
○学校便りでは、学校の様子を分かりやすい内容にまとめて、地域の人に知らせることができた。学校通信も全学年が毎週定期的に発行し、児童の様子や予定等を知らせた。また、HPは、できるだけ最新の情報を発信するようしてきた。	A a	○HHPだけでなく、各クラスでも、新山の良さや学びを、地域や地域外に発信していく取り組みをしていきたい。学級便りや学校便りを定期的に発行し、情報公開を行い、地域の皆さんとの連携を深めていくようにする。 ○市教委とも連携して、学校見学がいつでもできるよう公開を呼び掛けていく。
○全校研究テーマを「自分の考えを広げたり深めたりする力を育む指導・支援のあり方」とし、国語で「書くこと」に意欲的に取り組むための支援のあり方について各クラスで授業を公開し、教師のモデル文を提示したり、グループで見合う観点を明確にしてアドバイスし合ったり、振り返りカードを工夫したりするなど授業改善を図ってきた。 ○国語の推敲の場面では、活動を取り入れることで自分の考えがより明確になり、話し合いの場面で、自分の考えを自信を持って伝え合うことができた。 ○毎月行われる月目標ふりかえり集会を中心として、児童に対する共通理解を深めることができた。	A c	○子ども達が単元を通して目的意識を持って主体的に学習に取り組めるように、教材研究を工夫していきたい。 ○授業の振り返りの場面で、今後も「なぜ?」「どのようにして?」「何によって?」を問い返しながらか、本時のねらいにつながる振り返りができるようにしていく。また、メタ認知的な振り返り「何によってそうなったのか」という観点も、高学年では振り返りに取り入れていきたい。
○PTAや家庭と連携してノーテレビ・ノーゲームデーを年6回に行い、各家庭で目標を設定しノーテレビやノーゲームに取り組んできている。 ○「家庭学習の手引き」を作成し、学級懇談会などを通じて家庭での学習習慣定着を呼びかけた。その日に学んだことを家庭学習に行うように配慮している。	B c	○PTAや家庭と連携し、ノーテレビ・ノーゲームデーの推進を行う。また、家庭学習に自ら取り組めるように、その日学んだことを宿題に出したり、授業の終末段階でその日の宿題について触れたりし、進んで取り組むための工夫をする。
○ほとんどの児童が楽しく学校生活を送ることができた。授業だけでなく学校行事に向けての取り組みなどが充実し、子どもが張り合いを持って登校する気持ちにもつながった。 ○職員会議等では、毎回「子どものことから」の時間をとり、子どもの状況について細かく情報交換を行った。	A a	○全職員が全児童の担任であるという共通理解のもと、個々の児童の心身の状態に気を配り、気になることは担任と職員間で情報交換を行い、一人ひとりの児童が楽しく学校生活を送れるようにする。 ○何かあった際には、すぐに全職員に周知し、皆で力を合わせて解決していく。
○児童会本部が、毎週一番さわやかなあいさつができていた児童を選んで、下校指導時に全員の前に紹介する活動に取り組んだ。 ○児童会活動の「プレイザゲーム」、「新山ギネス」、「ミニ運動会」などで、上の子どもたちが下の子どもたちの面倒をみる伝統が位置付けられている。	A a	○児童の活動との連携を図るとともに、児童や保護者にアンケートを行い、いじめの早期発見に努めるとともに、発見されたいじめや子ども同士の意識の違いに対しては、SC、SSWなど外部機関と連携しながら、全職員で協力して解決に努める。 ○また、児童理解のための研修も継続していく。
○職員が、放課後当番で児童の下校を見守ってきた。PTA校外指導部による危険箇所点検、地域安全マップづくりを行い、今年度も交通事故が1件もなく過ごすことができた。 ○年度当初の呼びかけにより見守り隊に登録された方々が、自分のお子さん以外の子も見守ってくれている。	A b	○気をゆるめることなく安全対策を図っていく。通学路の安全が確保できるように見守り隊の方との連携をさらに図っていく。 ○通学路の工事、ちょっとした異変も職員室においてすぐに情報共有し、職員で児童の集団登下校が安全にできるように配慮していく。
○毎月の安全点検により校舎内外の危険に目を配った。今年度は自分の分担以外のところも点検した。 ○修理箇所は、教育委員会に対応をお願いしたり、校務技師が即座に対応し修理したりした。 ○新山は冬季の寒さが厳しいので、水道や消火栓の凍結防止の対応も、その時々、相談し合いながら忘れぬように取り組むことができた。	A b	○職員による毎月の安全点検を、担当場所を交えるなど工夫して確実に毎日危険箇所の早期発見に努め、早めに対処していく。 ○必要に応じて、市教委とも連絡をとり危険箇所の改善を早めに進めていく。 ○除雪については、地域と連携しながら、児童の登下校に配慮して進め、年度末に管理職が感謝の気持ちを伝えることを忘れぬ。
○PTAの協力を得て準備し、コロナ禍前の新山大運動会を実施できた。 ○CSの皆様や同窓会の皆様のお力をお借りし、校庭や校庭の周りの整備や、郷土館の整備を行うことができた。	A a	○地域の各種団体や地域の皆さんの協力をうけて、地域と連携した活動を進めて、たくましく心豊かな新山っ子を育てていきたい。 ○地域に「していただく」だけでなく、児童が地域に貢献できることを模索していく。

		○地域で学ぶ学習	○地域素材を生かし、子どもたちが地域の自然や人から学ぶ学習ができたか。	○コロナ禍においても、タケノコ採り、キノコ採り、地域探検、三界山登山などを通して、地域の方から地域の自然について学んだ。 ○新山探検・新山川に出かけ、自然とふれあう活動を行った。	A b	○地域を知ることから始め、地域の教材から学び、心こふるさとを創る学習に各学級で取り組むようにしたい。 ○新山小学校CS運営委員会を年5回開催して、その中で各学級が取り組んでいるふるさと学習に対する支援方法を検討していただくことを継続していく。
研修		○職員の資質向上、研究・修養	○自己課題や研修に積極的に取り組み、力をのばすことができたか。	○外部講師（地域、警察、セイフティーネット総合研究所、学校医）による研修会、講演会を行い、不審者対応に関わった実践や上新山の文化や歴史を学んだり、教師としてのあり方や人間性の向上を求めたりしながら取り組んできた。	A b	○教員としてよりも人としての研修も大切にしてきた。ICT教育を含めた研修を来年度年間計画に位置づけ、職員一人ひとりの力量を高め、人としての在り様を学んでいく。 ○外部の研修にも積極的に参加していきたい。
		○職員の非違行為防止	○非違行為への理解を深め、非違行為を絶対行わないという気持ちをもつことができたかも。	○年間計画に基づいて資料や討議の形態を変えるなどの工夫をしながら研修を継続的に行った。	A a	○具体的な事例や周囲の人への影響などを繰り返し扱うことで、より自分自身のこととして考えられるような内容の研修を行い、本校職員が非違行為を行うことがないようにする。